

翔

TOBU

NO. 56

1986年4月

百万石蝶談会

目次

野中 勝:石川県のスギタニルリシジミ	2
中西重雄:ギフチョウ蛹化場所の1例	5
井村正行:石川県のカミキリムシ科(その2)	6
松井泰子:「またまたほんの余談です・・・」	10
山口英夫:Self introduction	11
吉田徹也:Self introduction	11
松井正人:エゾエノキからオオムラサキを採幼	12
編集部:1986年私の抱負一覧表	12
編集部:会員の動き・しゃぼの動き	13
編集部:例会の記録(1986年2月7日の記録)	14

石川県のスギタニルリシジミ

野 中 勝

百万石蝶談会が結成された当時(1978年)はスギタニルリシジミ、*Celastrina sugitani* Matsumura の石川県下での記録はほとんど知られておらず、1971年発行の武藤 明氏による石川県の蝶相のまとめ(1)にも白峰村六万山が産地として挙げられているにすぎなかった。当時、本種は石川県では稀種に属するものと考えられており、筆者も本種の採集を目的として、岐阜・富山県境に近い岐阜県白川村成出ダムまで出かけたものである。その後本会会員の手になる記録の集積により、本種の県下での分布はかなり広いことが判明し、また幼虫採集の結果から個体数も決して少ないものではないことが明らかになった。これまで県下で本種の成虫が多数採集されるポイントが知られていないのは、積極的探索が行なわれていない結果に過ぎないと思われるので、ここにこれまでの知見をまとめて、今後の調査の用に供したい。

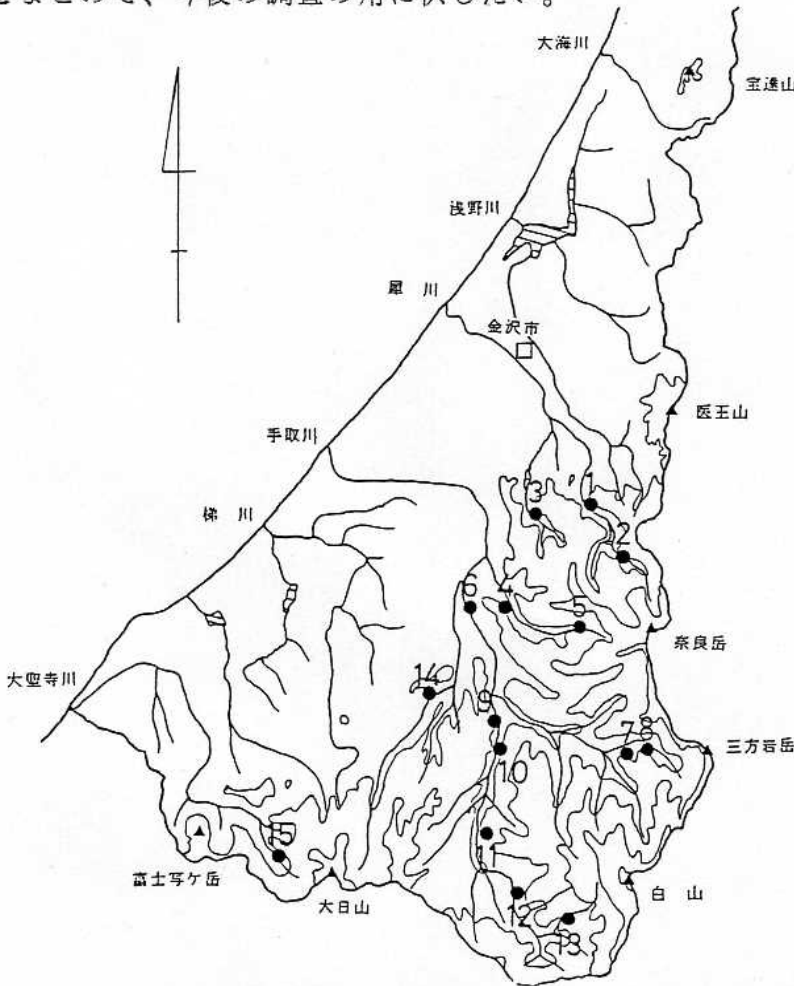


図1 石川県に於けるスギタニルリシジミの分布記録地

1)金沢市日尾	3♂♂	1979年 4月10日	吉村久貴(4)㊦1
	3♂♂	1979年 5月 2日	松井正人(51)
	2♂♂	1980年 4月26日	吉村久貴(15)
	1♂	1980年 4月29日	野中 勝(15)
2)金沢市倉谷川	1♂	1978年 6月 1日	松井正人(1)
	1♀	1980年 5月 4日	松井正人(未)
3)金沢市菊水	1♂	1983年 4月24日	金平永二(41)
4)石川郡河内村金間	1♂(目撃)	1984年 5月13日	野中 勝(未)
5)石川郡河内村奥池	数頭(目撃)	1982年	嵯峨井淳郎(30)
	1♂	1982年 5月 9日	松井正人(未)
6)石川郡吉野谷村下吉野	1♂(目撃)	1981年 5月 5日	松井正人(51)㊦2
7)石川郡吉野谷村中宮温泉	3♂♂1♀	1983年 5月10日	中西重雄(47)
8)石川郡吉野谷村蛇谷	1♀	1981年 6月 7日	野中 勝(21)
9)石川郡尾口村東二口	2♂♂	1984年 5月 6日	野中 勝(未)
10)石川郡尾口村釜谷	1♀	1984年 5月 6日	野中 勝(未)
11)石川郡白峰村百合谷	数頭	1985年 4月	松田俊郎(53)
12)石川郡白峰村天狗壁	1♂	1980年 5月11日	野中 勝(未)
13)石川郡白峰村釈迦林道	1♀	1982年 5月23日	野中 勝(未)
14)石川郡鳥越村阿手	1ex(目撃)	1982年 5月 5日	竹谷宏二(44)
15)江沼郡山中町真砂	1♂	1980年 4月27日	野中 勝(16)

㊦1 ()内は記録が報告された翔の号数。未は未発表記録。

㊦2 翔51号では河内村下吉野となっているが吉野谷村の誤りなので、松井氏の了承を得て訂正しておく。又、翔50号「百万石蝶談会6年の歩み」の中で、吉村氏がスギタニの産地として小松市丸山町を挙げているが、これもNO.44鳥越村阿手の記録の引用ミスなので本人の了承を得て訂正する。

1) 分布

これまでに報告された本種の記録地を図1に示す。図から明らかな様に、本種の記録地と河川との結び付きは極めて強く、これはトチノキの分布に既定されたものと考えられる。多くの採集者が訪れているにもかかわらず、道が尾根筋に存在する金沢市医王山からは記録が無く、分布様式はゼフィルスで言えばオナガシジミ的と言えよう。これまでの記録地は標高250m~1000mにわたり、水系としては犀川、手取川、大聖寺川に既定されているが、今後加賀地方の他の河川からも発見されることはほとんど疑い無いと言えよう。問題は浅野川以北、特に能登地方に本種が産するか否かであり、全く未調査に近い状態であり、ファイトあの人々の挑戦を期待したい。

2) 食樹

食樹としては吉野谷村中宮温泉付近で卵、幼虫採集によりトチノキを確認した。以下にその記録を記す。

1984年 6月 3日 約20幼(初、2令)5卵 トチノキのつぼみ
井村正行・野中 勝採集

1984年 6月10日 約100幼(2令～終令) トチノキのつぼみ、花、実
中西重雄・野中 勝採集

直接的な観察例は以上のものだけであるが、これまで知られている成虫の採集地はいずれもトチノキが存在し、これを食樹として発生したものである。しかし、逆に言う तोこれはトチノキを目標として成虫の探索が行なわれた結果でもあるので、他県で食樹となることが知られているキハダ、ミズキについては今後の検討課題と考えられる。

3) 飼育記録

結論を先に書くと、まだ一頭も完全な羽化には到っていない。

a) 卵のしぼり出し

尾口村釜谷で1984年5月6日に採集した雌より1卵をしぼり出した。5月11日フ化し、トチノキの花が手に入らなかった為、フジの花を与えたところ良く摂食し、見た限りでは順調に成育し2令となった。以後、トチノキのつぼみ、花で飼育した。5月14日第1眠起、5月17日第2眠起、5月21日第3眠起、5月28日蛹化と経過し、越夏に失敗して蛹は秋までに死亡した。

b) 卵・幼虫採集

「食樹」の所に書いた様に、採集した多数の幼虫をトチノキのつぼみ、花、実で飼育した。幼虫は50%近い効率で寄生されており、少なくとも2種の寄生者(ハエorハチと思われ、一方は黄色のマユを、他方は裸の蛹を作る。怠慢でそれ以上は観察せず)を認めた。約20頭が蛹になり、6月28日1♀が羽化した。羽は完全には伸びなかった。他の蛹は加湿して室温に放置したが、夏の暑さで多くが死に、秋期に生きていると思われるものは5~6頭だった。しかし、翌春になって1頭も羽化せず、蛹を壊すと総て干からびていた。

4) おまけ

ゼフィルス以外の飼育をほとんどしたことが無い弱点をさらけ出して、夏の間蛹を大部分殺してしまったのはまことに面目ないことである。幼虫採集は容易であるから、もっと有能な飼育者の手によって格調高い本種の雌がズラーッと並べられることを期待したい。

最近、会誌交換で寄せられた越佐昆虫同好会会報を見ていたら、今から30年以上も前に、当時高校生の平賀壮太氏によってスギタニルリシジミの完璧に近い飼育記が報じられていることに気が付いた(2)。筆者のこの余りにもいいかげんな報文と比較して欲しくは無いのだが、会員諸氏にも一読をお進めしておく。それはともかく、その中で平賀氏はスギタニの終令にフジの花を与え、摂食はするものの幼虫が下痢をするとして、フジは代用食樹とならないとされている。筆者は1令期の代用食としてフジは充分使えろと判断したが、これは幼虫の令による違いであろうか? この点もどなたか検討して頂きたい。

文献

(1)武藤 明(1971) 石川むしの会特別報告 第2号

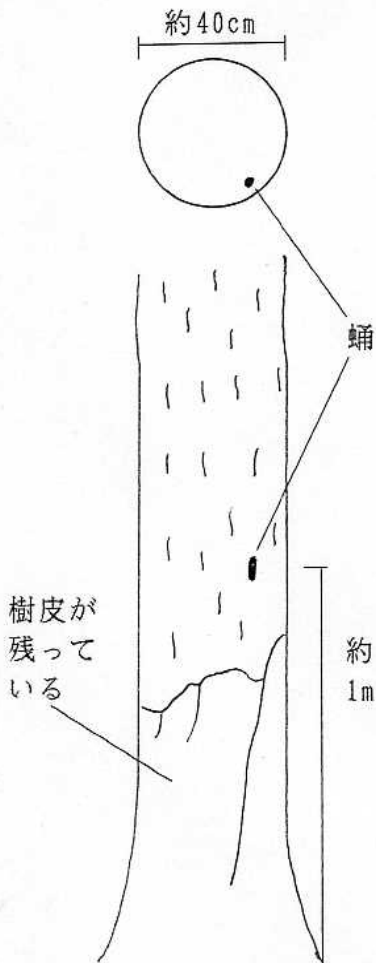
(2)平賀壮太(1952) 越佐昆虫同好会会報 6(3)

ギフチョウ蛹化場所の1例

中西重雄

筆者は、青海のマイマイカブリが採りたくて2週間連続して採集に出掛けたところ、1985年12月8日偶然にもギフチョウの蛹を発見する事ができた。場所は新潟県西頸城郡青梅町名引山の遊歩道で、発見したのはマイマイカブリを採らんと朽木崩しに励んでいたときであった。朽木は直径約40cmのアカマツで下部の方には樹皮が残っていて、いかにもおいしそうな朽木であった。ギフチョウの蛹は、地上約1mの所で樹皮がめくれてポロポロに朽ちた、やや乾燥ぎみの内部より見出だされた。この辺りのカンアオイには、ギフチョウのものと思われる食痕が多く残されていた。尚、この朽木からはマイマイカブリは現れず、かわりにおおきなゴキブリが出てきた。

ギフチョウの蛹は、野外での発見がかなり困難であり、採集例が少ないようなので、ギフチョウの1蛹化場所の例として報告しておきます。



ギフチョウの自然蛹(1986年 3月24日1♂羽化)

石川県のカミキリムシ科(その2)

井村正行

(その1)からは1年ぶりの登場なので、もういちど説明する。

データ-中多数例は記録の多いことを示し、若干例は同普通を示し、数例はこれまでに数例の記録しか無く稀、1~5例は非常に稀な事を示す。

ハナカミキリ亜科 Lepturinae

14. テツイロハナカミキリ Encyclops olivacea BATES

白山山麓のブナ帯より、ミズキ、カエデ、ゴトウズル等、各種の花より採集される。発生期5月下旬~7月上旬。

1979年 6月17日	1♂1♀	白山釈迦林道	井村正行
1980年 5月25日	1♂1♀	白山釈迦林道	井村正行
			他 多数例

15. ハイイロハナカミキリ Rhagium japonicum BATES

白山のブナ帯上部より亜高山帯に分布。針葉樹の立枯及び倒木上で採集されているが、余り記録は多くない。発生期7月~8月。

1949年 7月23日	1ex	白山室堂平	松枝 章
1978年 7月23日	1♀	白山釈迦岳	入場 登
			他 数例

16. ヒラヤマコブハナカミキリ Enoploderes bicolor OHBAYASHI

白山のブナ帯で3例の記録があるだけの、大変稀な種。カエデの花上及び飛翔中のものが採集されている。発生期5月~6月。

1973年 6月20日	1♂	白山釈迦林道	入場 登
1982年 5月13日	1♀	白山釈迦林道	野中 勝
			他 1例

17. フタコブルリハナカミキリ Stenocorus coeruleipennis BATES

低山帯からブナ帯まで広く分布するが、個体数はあまり多くないようだ。低山では、ガマズミ、クリの花等で5~6月に見られ、ブナ帯では、6~7月に各種の花より採集される。低山帯では、触角、足が黄色化しているのに対して標高の高い所で採集されるものは、黄色~黒色まで変化に富む。

1974年 6月 2日	1♂	金沢市湯涌	井村正行
1980年 7月29日	1♂1♀	白山別当出合	野中 勝
			他 若干例

18. モモグロハナカミキリ Toxotinus reini HEYDEN

低山帯から亜高山帯まで広く分布し、葉上に静止しているものや、飛翔中のものが採集されている。個体数も少なくない。発生期5月~7月。

1979年 6月17日	1♀	白山釈迦道	井村正行
1983年 6月15日	2♂	金沢市医王山	野中 勝
			他 多数例

19. フタスジカタビロハナカミキリ Brachyta bifasciata OLIVIER

白山のブナ帯に分布し、ヤマシャクヤクの花を後食しているものや、その根元付近にいるものが採集されている。発生期 5月～6月上旬。

1978年 5月 6日	1♀	石川郡鳥越村大日	橋場 清
1979年 5月 20日	1♂2♀	白山岩間温泉	井村正行
			他 数例

20. クモマハナカミキリ Evodinus borealis GYLLENHAL

白山のブナ帯上部より亜高山帯にて、各種花より採集されている。白山亜高山帯では少なくない。発生期 7月～8月。

1980年 8月 3日	1♂1♀	白山北竜	入場 登
			他 数例

21. カラカネハナカミキリ Gaurotes doris BATES

平地～亜高山帯まで大変広く分布し、各種花より採集される。広葉樹の立枯、倒木などに飛来する。個体数も多い。白山のブナ帯で採集されるものの中に青藍色の大変美しいものが少数混ざる。5月より8月にかけて標高をおって採集される。

1981年 6月 17日	1♂1♀	白山釈迦林道	井村正行
			他 多数例

22. キバネニセハムシハナカミキリ Lemula decipiens BATES

平地～ブナ帯上部まで大変広く分布し、各種花より採集される。ミズキ等の枯枝に本種が集まっているのを見かけたことがある。個体数も多い。4月下旬から7月にかけて標高をおって採集される。

1979年 5月 6日	1♂	金沢市倉ヶ岳	井村正行
1980年 5月 25日	1♂	白山釈迦林道	井村正行
			他 多数例

23. ピックニセハムシハナカミキリ Lemula rufithorax PIC

白山のブナ帯に分布して、カエデ、ミズキ等の花より採集される。次種より少々早めに発生して、ピーク時は混棲する。発生期 5月下旬～6月。

1980年 5月 25日	1♂	白山釈迦林道	井村正行
1981年 7月 1日	1♀	白山釈迦林道	井村正行
			他 若干例

24. アカイロニセハムシハナカミキリ Lemula nishimurai SEKI

本種は低山帯よりブナ帯まで前種よりも広く分布し、各種の花より採集されている。倉ヶ岳で5月にカエデの花が咲き終わった葉のスウィーピングにて2頭採集したこともある。発生期 4月下旬～6月まで。

1980年 5月 25日	2♂	白山釈迦林道	井村正行
1980年 5月 27日	2♀	金沢市倉ヶ岳	井村正行
			他 若干例

25. ヒナルリハナカミキリ Dinoptera minuta GEBLER

平地よりブナ帯まで最優占種として広く分布し、各種花より採集され、ミズキ、ヌルデ等の枯枝にも集まる。個体数も大変多い。発生期4月～7月。

1979年 5月20日 2♂ 白山釈迦林道 井村正行
1981年 4月20日 1♂2♀ 金沢市倉ヶ岳 井村正行
他 多数例

26. ハクサンヒメハナカミキリ Pidonia obscurior hakusana OHBAYASHI

本種は白山の亜種名を持つことで知られる。白山のブナ帯上部から亜高山帯まで分布し、各種花より採集される。6月中旬より8月上旬まで月をおって発生は高地へ移行する。個体数はさほど多くない。

1980年 8月 3日 白山甚ノ助 入場 登
1983年 6月20日 白山釈迦林道 井村正行
他 若干例

27. フイリヒメハナカミキリ Pidonia signata MATSUSHITA

白山の亜高山帯にのみ分布(標高2000m以上)し、各種花より採集される。これらの地域では、さほど稀なものではないと聞く。発生期7月中旬～8月中旬。

1980年 8月 3日 白山北竜 入場 登
他 数例

28. オオバヤシヒメハナカミキリ Pidonia limbaticollis ohbayashii MATSUSHITA

ブナ帯上部から亜高山帯下部に分布し、7月から8月にかけて採集されるようだ。個体数も少なくないと聞く。

1960年 8月 3日 2♂ 白山 松枝 章
他 数例

29. マツシタヒメハナカミキリ Pidonia matsushitai OHBAYASHI

白山ブナ帯より亜高山帯に分布し、6月から7月に各種花より採集され個体数も多い。

1980年 6月29日 1♂2♀ 白山釈迦林道 井村正行
他 多数例

30. ヒメハナカミキリ Pidonia mutata BATES

白山のブナ帯に分布し、5月から6月に各種花より採集される。個体数は発生の初期に多く見られるようだ。

1980年 5月25日 白山釈迦林道 井村正行
1981年 6月17日 白山釈迦林道 井村正行
他 多数例

31. カクムネヒメハナカミキリ Pidonia bouvieri PIC

白山ブナ帯から亜高山帯に分布し、6月下旬から8月にかけて各種花より採集され、個体数も多い。

1979年 8月 8日 1♀ 白山釈迦林道 井村正行
1980年 8月 3日 1♂ 白山大杉谷 井村正行
他 多数例

32. ムネモンヒメハナカミキリ Pidonia maculithorax PIC
 白山で採集されていることは確実なようだが、筆者はまだ確認していない。
33. ナカバヒメハナカミキリ Pidonia signifera BATES
 平地から亜高山帯まで広く分布し、個体数も多い。5月から7月にかけて各種花より採集される。特にタニウツギの花には本種が多く集まる。
 1980年 6月29日 1♂1♀ 白山釈迦林道 井村正行
 他 多数例
34. キベリクロヒメハナカミキリ Pidonia discoidalis PIC
 白山のブナ帯より亜高山帯に分布。5月から7月にかけて各種花より採集される。採集される個体は、f. muneaka と呼ばれるもので、上翅が完全に黒化した♀もかなり多く採集される。個体数も大変多い。
 1979年 6月24日 2♂2♀ 白山釈迦林道 井村正行
 他 多数例
35. オオヒメハナカミキリ Pidonia grallatrix BATES
 白山のブナ帯から亜高山帯に分布。6月から8月まで見られ、各種花より採集され個体数も多い。ブナの立枯及び倒木等に♀が飛来して、産卵行動をとるものも見られる。
 1979年 6月24日 2♂1♀ 白山釈迦林道 井村正行
 他 多数例
36. ヨコモモンヒメハナカミキリ Pidonia insuturata PIC
 白山のブナ帯上部から亜高山帯に分布。6月下旬から7月に各種花より採集される。ニセヨコモモンヒメハナより標高の高い所で採集されている。
 1960年 7月31日 2♂1♀ 白山 松枝 章
 1976年 6月20日 1♂ 白山釈迦林道 入場 登
 他 数例
37. ニセヨコモモンヒメハナカミキリ Pidonia simillima OHBAYASHI
 白山のブナ帯に分布し、6月から7月に各種花より採集される。個体数も少なくない。本種は前種より標高の低い所で採集され、ブナ帯上部標高1000m～1500m位の地では混棲するようだ。
 1979年 6月24日 5♂ 白山釈迦林道 井村正行
 他 多数例
38. ムネアカヨコモモンヒメハナカミキリ Pidonia masakii HAYASHI
 白山のブナ帯から亜高山帯に分布し、6月から8月まで各種花より採集される。個体数も多い。本種はP. simillima よりやや標高の低い所より棲息し、ブナ帯ではP. simillima と、亜高山帯ではP. insuturataとそれぞれ混棲する。
 1979年 6月17日 1♂ 白山釈迦林道 井村正行
 1980年 6月29日 1♂2♀ 白山釈迦林道 井村正行
 他 多数例

39. イヨヒメハナカミキリ Pidonia hylophila KUBOKI
 白山のブナ帯で、6月に各種花より採集されるが、個体数は大変少ない。
 1979年 6月17日 2♂ 白山釈迦林道 井村正行
 他 2例
40. セスジヒメハナカミキリ Pidonia amentata BATES
 低山帯より亜高山帯まで大変広く分布し、個体数も多い。4月下旬から7
 月に各種花より採集される。気温の上昇と共に発生は高地へ移行する。
 1980年 6月 5日 2♂ 金沢市倉ヶ岳 井村正行
 1981年 5月31日 2♂1♀ 白山釈迦林道 井村正行
 他 多数例
41. ミワヒメハナカミキリ Pidonia miwai MATSUSHITA
 平地から亜高山帯まで大変広く分布し、前種とほぼ同様な生態をしている。
 4月下旬から7月まで各種花より採集され、個体数も多い。
 1979年 6月24日 2♂1♀ 白山釈迦林道 井村正行
 1980年 6月 5日 2♂1♀ 金沢市倉ヶ岳 井村正行
 他 多数例
42. チャイロヒメハナカミキリ Pidonia aegrota BATES
 低山帯から亜高山帯まで大変広く分布しているが、低地での記録は余り多
 くない。個体数は大変多く、標高をおって5月から8月上旬まで各種花より
 採集される。
 1979年 6月17日 1♂2♀ 白山釈迦林道 井村正行
 1981年 5月30日 1ex 鹿島町碁石ヶ峰 松枝 章
 他 多数例
43. フタオビノミハナカミキリ Pidonia puziloi SOLSKY
 平地からブナ帯まで分布し、各種の花より採集されるが、とくに日陰のショ
 ウマ、シモツケ類を好むようだ。個体数も多い。
 1979年 6月24日 2♂1♀ 白山釈迦林道 井村正行
 他 多数例
44. ニセフタオビノミハナカミキリ Pidonia testacea MATSUSHITA
 白山の亜高山帯に分布し、7月から8月にかけて各種の花に見られる。個
 体数も多い。
 1980年 8月 3日 2♂2♀ 白山北竜 入場 登
 他 多数例

「またまたほんの余談です・・・」

松 井 泰 子

そろそろ暖かい風も吹き始め、ムシヤたちがそわそわと落ち着きをなくす季節となりました。一年たつのは何と早いものなのでしょう。私が病院のベッドでサッシからの暖かい陽光を横目に、もうカタクリの花は開いたのだろうか、

ギフもそろそろ翔ぶだろう、などと回想していたのもついこの間のように思われます。そして退院した時はもうアブラゼミの声がやたらに耳障りな頃となっていましたので、今年の春は私にとって2年ぶりの春なのであります。ですから山の空気がやたら恋しくて、ひたすらふらっと出掛けたくってはいるのですが、実のところ以前のようにあれを採って、これも採って・・・と、とりわけて採集に専念しようとは思わなくなっているのです。

何と無く殺生することに気がひけてならないこの頃。親子ともに生と死の間を彷徨い命の尊さを感じ取ったためでしょうか。まして同じ病棟で二人の方が逝去されるのを目の当たりにしたものですから、なおさらなのでありましょう。何でもない虫ケラー一匹でも大切に思えたりするのです。こんな事ばかり書くと蝶談会除名なんてことになったりして～。

でも皆さん、"虫供養"はした方がいいと思いませんか？ 6月4日のムシの日には供養してあげようと、うちの虫バカセも2・3年前から言っておりました。いったいどんな事をするのか？ って、そりゃあ夜の山の中で標本箱並べてみんな合掌 ナンマイダ～～ な～んて陰気でいやだから、みんな片町でお酒飲んでパーとさわぐんだぞ！

Self introduction

山口 英夫

自 宅 画930 富山市開726 ☎ 0764-25-6674
血液型 AB型 昭和23年生まれ 会 社 員

富山で生まれ、ほとんど富山でしか採集したことがありません。自分では本当に虫好きなのかなあと、疑問すら感じています。僕の好きなことは、虫屋の人達と虫の話を楽しむことです。そんな訳で、ひょんな事から越中むしの会の会長になってしまって困っています。やめたくても抜けられません。今回入会したのは貴会が隣県であることと、すごく活発でまぶしく見えたからです。蝶にも他にもあまり知識は有りませんので、よろしく御指導ください。

Self introduction

吉田 徹也

自 宅 画 930 富山市五福4区4866-5 ☎ 0764-42-2570
血液型 B型 昭和22年京都生まれ 会 社 員

蝶を採り始めたのは、京都の嵯峨野に住んでいた頃です。当時、小倉山二尊院の近くで、キマダラルリツバメを初めて採集した時、手が震えて思わずネットの上からブチュッと潰してしまった記憶が、今でも懐かしく思い出されます。富山には、7年前に大阪府高槻市から転勤で家族共々越して来ました。最近是比较的多忙で、フィールドワークもろくすっぽ出来ず、専ら図鑑や、会誌などを見ては、溜め息ばかりついています。皆さんから刺激を受けて、今年は少し頑張りたいと思っています。どうぞ宜しくお願いいたします。

エゾエノキからオオムラサキを採紡

松井 正 人

エゾエノキの根際よりオオムラサキの越冬幼虫を採集したので報告する。採集場所は中宮発電所の川向かいで、歩道脇の高さ5~6m程の木の根際である。同時にゴマダラチョウの幼虫も確認した。発表するにあたり、幼虫と共に持ち帰った落ち葉よりエゾエノキであることを同定していただいた、田中秀夫氏にお礼を申しあげる。

1985年12月 8日 石川郡尾口村一里野 松井 正 人
オオムラサキ 6 exs採集、ゴマダラチョウ 10exs確認

1986年私の抱負一覧表

2月7日の蝶談会で、会員が語り合ったものです。

井村	白山で、ピドニア(ハナカミキリ)を調査したい。
小幡	ギフチョウの交尾写真が撮りたい。坪野付近を集中的に攻めるので、皆さん採集しないで下さい。
勝海	能登の湿地でヒメヒカゲを探したい。とくに食虫植物のある所がねらいめ。
近藤	ジャコウアゲハをカンアオイで飼育実験する。それと昔、兼六園で目撃したキリシマミドリシジミをぜひとも確認したい。
澤田	砂丘地域のオサムシを調べる。県内のテントウムシも調査したい。
竹谷	県内産総ての蝶の生態写真を撮るのが目標だから、今年はとりあえず、ゴマシジミ、カラスシジミ、クモマベニヒカゲを撮る。
田中	県内のクワガタムシを調べたい。オオクワガタはきっと何処かにいるはずだ。それにオオムラサキとゴマダラチョウの調査もやりたい。
田辺	県内、県外を問わず蝶の写真をガンガン撮る。
中西	青森から佐渡から五島列島まで掘りまくりますよ。それから県産ヒサマツミドリシジミの調査と能登地方のウラキンシジミの調査。
野村	蝶の普通種標本をしっかりと集めます。それからオオムラサキ、コムラサキの幼虫採集もやりたい。
野中	どンドン航空便で送るからリストだしてちょうだい。
松井 (正)	県内でクロシジミの産地を見付けたい。それと蝶の幼虫採集、とくにホシチャバネセセリは採りたい。
松井 (泰)	採集もいいけど、時間があれば生態観察などして精一杯ムシたちと親しみたい。
松田	ゼフィルスの生態写真が撮りたい。あと何処でもいいからキベリタテハが採りたいなあ。
吉村	今年はどうどんフィールドへ出て、蝶の生態写真を撮る。それから県産のクロシジミ、コヒオドシが採りたい。

会員の動き・しゃばの動き

★最近オサムシグループの動きが活発化し、大雪をついて県内各地へ調査に出ている。そのせいか編集子に寄ると障ると、会誌“翔はばい”を出せとうるさい。いやはや困ったものだ。

★人気者のファール先生、2月14日は女生徒から逃げ回ったらしい。それでもしこたまチョコレートをもってしまい、現在体調を崩してるんだってさ。うらやましい限り！

★2月16日井村、沢田、野中、松井の5氏、県内虫屋の大先輩、松枝章氏宅を訪問。能登から加賀に至る各地の、多岐に及ぶ標本を拝見した。数ある標本の中には県内では幻とも言うべきカミキリ等もあり、井村会長など標本箱の前からなかなか離れようとしなかった。おかげで帰るのが遅くなり、大変ご迷惑をかけた。

★2月22日松井、田中のチョウグループは、医王山へカンジキ採卵。2、3日天気が良かったせいか雪が締まって事のほか歩き易く、医王の里までスイスイと行ったらしい。ところが12時頃より猛吹雪となり、採卵はわずか2時間足らずで終わったみたい。

★2月22日中西、野中の猛烈オサムシグループは加賀橋立加佐の岬まで、わざわざツルハシを持ってドライブしたらしい。なんでも中西氏のツルハシは特別製とかで、今の世には珍しいカジヤさんに特別注文して作らせた代物。これで掘ればマイマイだのオサムシだのがザクザク出てくるらしい。

★目撃記録しかない金平氏、現在麻酔医として日夜手術に臨んでるらしい。手術の予定がはっきりせず、また突発の手術もあるらしく、明日の予定も立たないらしい。病院での寝泊まりもしよっちゃうとか。

★3月2日松井、田中、野村の3氏、能登へコムラサキの調査。雪深い奥能登ではカンジキが大変役だったらしい。

★3月2日中西、野中、沢田の熱狂オサムシグループ、能登の突端狼煙方面まで遠征したらしい。なんでもモンロータイプのマイマイがどうか言っていたが、採れたのかは知らない。

★3月9日熱狂オサムシグループはまたもや能登へ。チョウグループは、ヒサマツチームとコムラサキチームに分かれ、金沢市周辺を調査。

★「ギフチョウ88か所めぐり」発行さる。秋田から山口までの産地90か所が、採集記やポイント地図と共に紹介されている。巻頭には各産地のギフチョウがカラー写真でズラリと並んでいて、本文中の解説と合わせ見ることによって、興味も倍増する。会員の松田氏も執筆してるので、分けてもらえるかも知れないが、買えば一冊4800円。(有)蝶研出版。尚同出版より「蝶研フィールド」なる月刊誌が4月号から出る模様。日本産蝶の専門紙ということで、蝶以外の記事、外国の採集記、難しい論文等は全く載っていないらしい。また写真は総てカラーという豪華版。毎月25日発行で1冊1000円。

★能登の調査以来コムラサキに狂った田中氏、下平地の水田地帯でも調査に乗り出し、あちこちで幼虫を確認している模様。そのうち「森本水田地帯におけるコムラサキの分布」なんて原稿が出てきそうである。

★3月16日「野中 勝氏を励ます会」午後3時より大場町松井邸にて開催。天候も良くせっかくの採集日和との声も聞かれたが、大勢の会員が集い8時までにぎわった。席上、野中氏は「バナイ計画」と「コプトラ計画」について少しふれたがここでは割愛する。またいつもながら気が利く勝海氏からは、氏の心とも言える大きな花束が贈られた。尚、野中一家は、3月いっぱい金沢を離れ、4月7日に日本を発つ予定らしい。

★雪解け早々オオムラサキの調査を再開した田中氏、どうも秋とは勝手が違うらしい。雪に落ち葉を攪乱されて、幼虫がすこぶる見付けづらくなるとか。その影響は急斜面程大きいらしい。

★3月23日松井氏の所は飼育の最盛期。2月より始めたメスアカはすでに終令とかで、これを筆頭に各令の幼虫がゴチャゴチャといるらしく、今もカラスシジミがボコボコふ化してるらしい。おまけにギフチョウも羽化しだしたそうで、うれしい悲鳴をあげてるとか。

★今度4回生の吉村貴己氏、どうも農業学研究室に入る様子。氏のことだから誘因剤が対象かと思われるが、いいところ・・・ゴキブリとか・・・ガの比になっちゃうんじゃないのかな？

★引っ越し準備でおお忙しの野中氏、日本の虫はもういらないとばかりに大盤振舞をしている様子。うわさを聞き付けてか、夜になると入れ替わり立ち替わり虫達君が寄るらしい。おかげで引っ越し準備は一向に進まないらしい。

例 会 の 記 録

2月7日(金)城南管工2Fにて開催。

8時：第2回御気に入り標本大きさ比べ。持ち寄られた標本箱は10箱を優に越したが、御気に入りの標本が合わず、比べたのはわずかに飼育ムモンアカシジミのみ。

9時：1985年Mr.Ms.蝶談会副賞授与。Mr.蝶談会の松井氏にはドイツ型標本箱1箱、準Mr蝶談会の野中氏には、最高級虫ピンセット同等金。

9時10分：“1986年私の抱負”発表会別項記載

10時30分：スライド映写会。竹谷氏「四季の蝶Part II」、小幡氏「美しきものたち(フ化から羽化へ)」、田辺氏「故里の蝶」、松井氏「続採集者達」、吉村氏「僕の蝶、僕の山」いつもながらため息の出る物ばかりで時間を大幅の延長してしまい、近藤氏のスライドは映写出来ませんでした。次回御楽しみに。

12時30分：散会。以上出席者は、井村、小幡、勝海、野中、野村、澤田、田中、松田、近藤、田辺、吉村、竹谷、中西夫妻、松井夫妻の16名でした。

とぶ	NO.56	1986年4月4日発行
編集	松井正人	
発行	百万石蝶談会	
事務局	金沢市大場町東871の15	
	松井方	
	☎920-01	☎0762-58-2727